

100周年特集によせて

パナソニック（株） 専務執行役員
技術担当 宮部 義幸



松下幸之助創業者が、1918年に松下電気器具製作所を創業してから、今年でちょうど100年目を迎えました。多くの難局を乗り越え、当社が100周年を迎えることができたのは、お客様やパートナー様のご理解とご支援の賜物（たまもの）であり、感謝の念に堪えません。

事業環境の変化は激しさを増すなか、次の100年の発展に向け「新しいパナソニック」を築くために、イノベーションで技術力を磨いてビジネスモデルを変えることが求められています。

目指すのは、“A Better Life, A Better World”。すなわちお客様お一人おひとりのより良い暮らし、より良い社会の実現です。お客様にとっての「本物」とは何かを自ら考え、その暮らしをイノベーションによって大きく変えていく。この挑戦こそが、次の100年においても、私たちが果たすべき役割であり目指す姿だと強く思います。

この100年を振り返ると、世界は大量生産・大量消費の時代であるSociety3.0から、IT企業を中心としてネットを介し情報をベースとしたサービスが提供されるSociety4.0の時代を経て、その次には、リアルとバーチャルが融合したサイバーフィジカルと呼ばれるSociety5.0の時代が来ると言われています。

当社は、創業当時は小規模な組織ではありましたが、常に「どうすればお客様に喜ばれるか」を意識して事業にチャレンジしていました。Society5.0時代を迎えるにあたり、私たちは、創業時代の精神をもう一度実践することが重要だと思っています。

世の中の役に立つと思うものをどんどん提案して、まず試作して、世に問う。答えは、お客様が示していただけます。ダメな場合は、改良する、違う視点で考える、など、ルールやプロセスに縛られることなく、常に考え、カタチにし、世の中に提案する。これが変革期に求められるマネジメントだと考えています。当社はこれまで製造業として、お客様が暮らしのなかで使い操作をする商品や機器、それらを使ったシステムを提供し、成長することができました。ただ、こうしたやり方はSociety3.0、いわゆる工業化社会のなかで培ったもので、完成された

業務プロセスに従って、企画・開発・製造・販売という一連の流れを忠実にこなしていくものでした。これからは、こうしたやり方に加え、お客様からの評価を受けながら企画・開発・製造などを柔軟かつ高速に回していくことで、商品やシステムをより良くしていくことが求められます。

私たちは、Society5.0時代は、人間にとってやさしく、真の意味で便利で快適な世界を提供していくことを今一度、しっかりと考えねばならないと感じています。

当社グループにおいては、それぞれのカンパニーの研究開発部門がそれぞれの事業領域をさらに強化すべく、将来を担う新技術や新製品の開発に注力しています。加えて新事業の成長加速に向け、サービス中心の事業および、IoT技術・AI技術に基づく事業創出をビジネスイノベーション本部が、新事業を切り開く革新的な技術創出をテクノロジーイノベーション本部が担当し、新しい価値を提案する活動をし、新事業の創出にチャレンジしています。

本号では100周年特集として、当社の4つの事業カンパニーにおける100周年商品を支える技術、および今後の成長を担う新商品・新事業を実現する技術に関する技術論文・技術解説を掲載しています。

また、イノベーションによるより良い社会の実現という観点で、東京大学総長の五神真先生より「より良い社会を勝ち取るために ～Society5.0の実現に向けて～」と題して東京大学の先進的な取り組みの紹介や新しい産学連携の在り方についてご寄稿いただいております。

“A Better Life, A Better World”の実現に向けて、今後もお客様のご意見やご要望に真摯に耳を傾け、常にお客様の立場に立ち、いち早くお困り事を解決しながら期待を大きく超える「お役立ち」を、技術をとおして提供するべく、新商品・新事業を支えるイノベーションの創出に取り組んでまいります。

本号をご高覧いただき、当社の取り組みに対しご理解を賜りますとともに、次なる100年に向けて忌憚（きたん）のないご意見・ご指導を頂戴できれば幸甚です。